

# 子どもの問いからはじまる授業づくり

## 【問いをつくる】

### たくさん疑問を出す経験

低学年段階では、質は問わず、たくさんの疑問や分からないことなどを発見できる力を養っていきたい。つまり、量である。子どもたちの素直なつぶやきや疑問を価値づけていく。

### 問いの分類・精査する経験

ある程度決められた条件のもと「問いをつくる場」を設定する。また、問いを分類するための観点を決める経験。さらには、出された問いをもとに、「話す順序」や「良い問いはどれか」ということを話し合う経験を大切にする。

教師が介入する機会が多い段階と捉える。

### 問いの分類・精査する経験

中学年と求める力は同様であるが、

- ①問いをつくる
- ②問いを分類する
- ③問いを精査する

を自分たちで決められた時間内で話し合う力を養っていく。

1年生

2年生

3年生

4年生

5年生

6年生

## 【問いを解決】

教師側が子どもの問いをピックアップしながら展開する

※低学年段階では、**言語活動を軸にしながら単元を展開していくことを大切にする**

### 一斉授業の中で解決

自分たちが決めた問いを解決していく経験を大切していく。

さらには、問いを評価する活動を取り入れて、記述の質をたかめていく。

なお、一斉授業だけではなく多様な学習形態で解決していくことを経験させることも、高学年へのステップと考える。

### 一斉授業の中で解決

### グループで解決

### 自分で解決

多様な形態で解決し、問いを評価していく。

質が高く自然発生的な問い

多様な学びの形態

# 問いをもとにした授業展開(一例)

## (個人で問いを追求する場合)

- ①テキストとの出会い
- ②設定・大きな変化を読み取る

③問いを設定する段階

④学び方を見通す段階

⑤考えを深める段階

⑥考えをまとめる段階

⑦まとめ・共有

読みの土台をつくる

## (全体で問いを追求する場合)

- ①テキストとの出会い
- ②設定・大きな変化を読み取る

③問いを設定する段階

④問いを精査する段階

⑤精査した問いを全体で話し合う段階

⑥まとめ・共有

# 問いを設定する段階

## ～問いを設定する視点～

たとえば？根拠は？

本当？信じているの？

そこから何が言える？

どうやってやるの？

そもそもどうやって？

～はあたり前？

～はどのように意味？

なぜ？

# 学び方を見通す段階

## ～見通す視点～

- 何を手がかりに学ぶの？
- 何に（どんな視点に）注目するの？
- どう考えるの？
- どんな手順で学ぶの？
- どのようにまとめるの？
- 何を使ってまとめるの？
- 一人で？グループで？ペアで？
- 何が達成できたら A 評価？

# 学びを深める段階

## ～三角ロジック～

### 根拠

- ・ 本文の叙述から
- ・ 既習の読み方

### 主張(考え)

### 理由づけ

- ・ 根拠から想像する

論理的思考

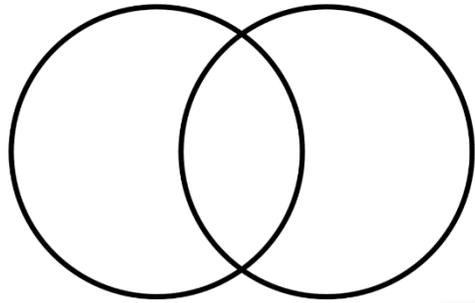
難波 博孝 (2012) 「日常の論理」の教育をトポスから考える: 「三角ロジック」的国語科読むことの授業の問題点と克服」より

国語の学習用語 (問いを解決する時の重要な視点となります)

# 考えをまとめる段階

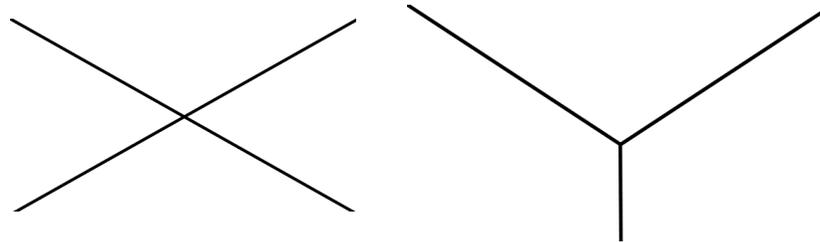
～思考ツールの活用～

比較する



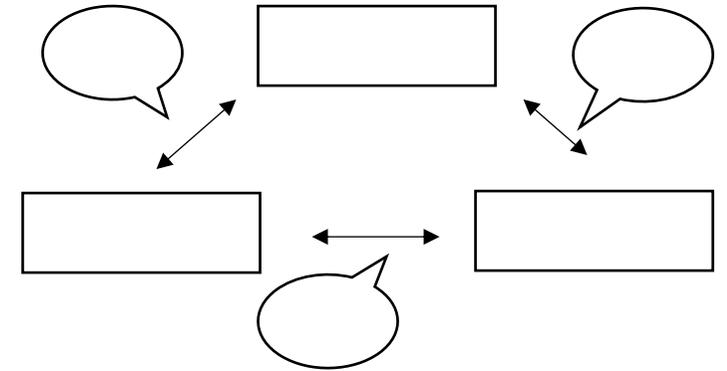
ベン図

分類する



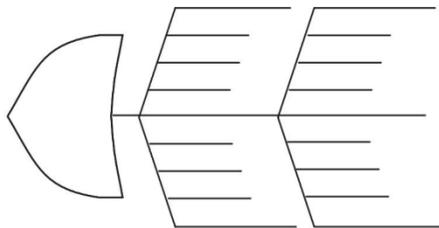
Xチャート Yチャート

つなげる



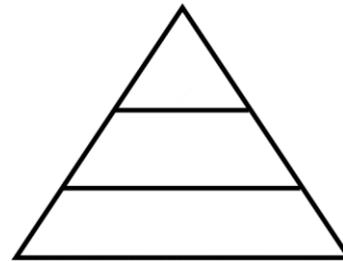
コンセプトマップ

多面的にみる



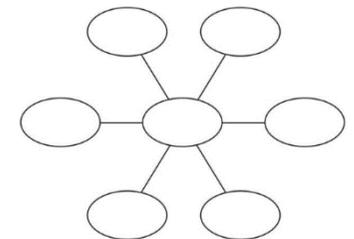
ボーン図

組み立てる



ピラミッドチャート

広げる



イメージマップ